

MAX

取扱説明書

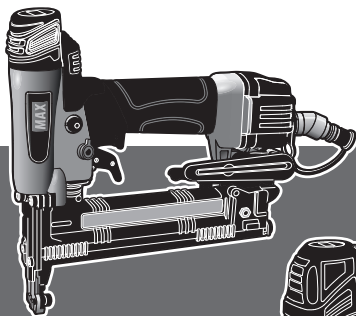
プロ用

このたびは、マックス釘打機をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の手扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

警告

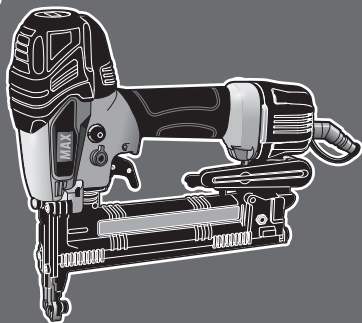
- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
- 使用の際は、作業者及びまわりの人も必ず保護メガネを着用する。
- 安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。
正常に作動しない場合は使用しない。
- 打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。
- 射出口を絶対に人体に向けない。

この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。



マックス釘打機スーパーネイラ
HA-38F3(D)/4MAフロア

マックス釘打機フロアネイラ
TA-238F3(D)/4MAフロア

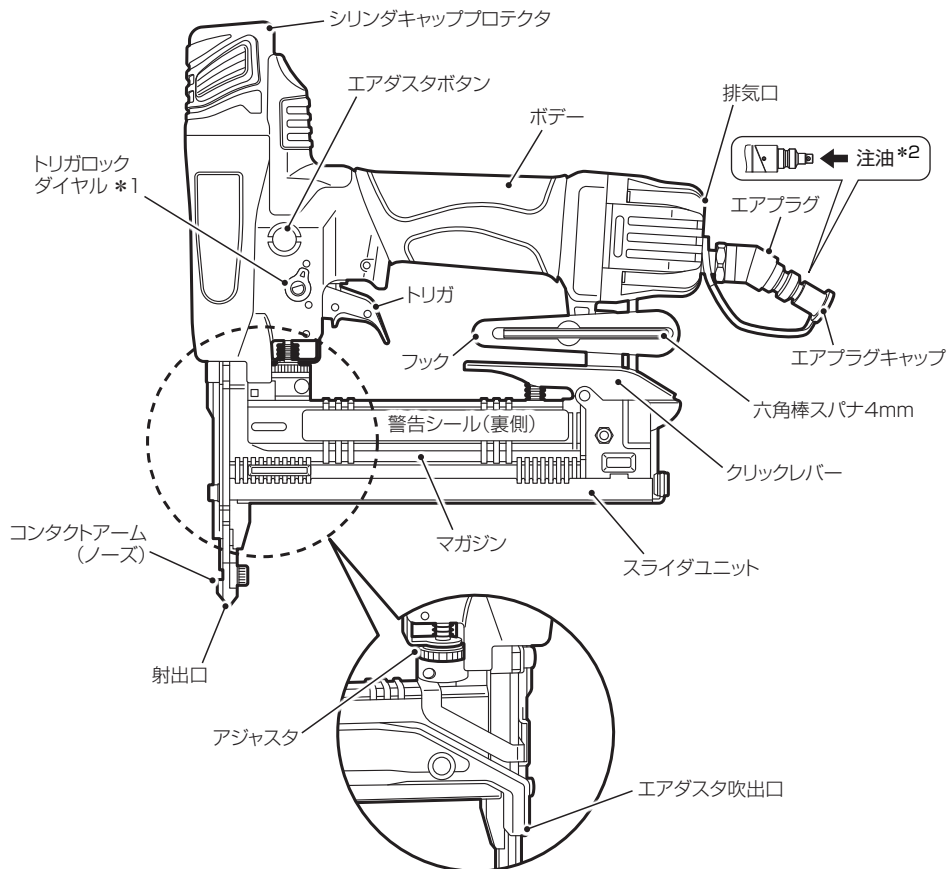


目 次

各部の名称	3
安全作業のために	4~9
安全装置について	10~12
仕様及び付属品	13,14
使用方法	15~21
ステーブルの装填方法	15
打ち方	16,17
フックの方向の変え方	17
シリンダキャッププロテクタ交換方法	18,19
エアダスタの使用法	20
平打ちアタッチメントの使い方	21
配管についての注意	22,23
エアホースの接続	24
打込状態の確認と空気圧・アジャスタの調整	25
ステーブルづまりの直し方	26
保守・点検	27,28
保証、アフターサービスについて	28
保証について	28
アフターサービスについて	28

各部の名称

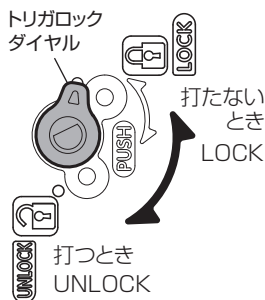
※以降、イラストはHA-38F3(D)/4MAフロアで説明しています。



*1 トリガロックダイヤル

押し回すことでロックとアンロックを切り替えます。

トリガロックダイヤル



*2 注油



注意

指定オイルを注油する



マックス指定
オイル
(別売品)

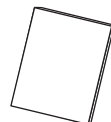
付属品



保護メガネ



キャリングケース



取扱説明書



平打ち
アタッチメント



ジェットオイル
(油入)
※中ぶたを外して
使用してください。

▲ 安全作業のために

本機は、木質フローリング材を木材およびそれに類した材料に止めることを目的とした釘打機です。指定以外の用途、使用法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

■ 表示の意味について

ご使用上の注意事項は、**▲ 警告**、**▲ 注意** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。



誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。



誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**▲ 注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

絵表示について



この記号は「してはいけないこと」を意味しています。
この記号の中や近くの表示は具体的な禁止内容です。

作業前

▲ 警告

使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。

ステーブル打ち作業をする時、打ち損じのステーブルがはね返り、眼に入ると失明するおそれがあります。作業する本人はもとよりまわりの人も必ず保護メガネを着用してください。



防音保護具を着用する。

ステーブル打ち作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。



作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。



⚠ 安全作業のために

⚠ 警告

HA-38F3 (D) /4MAフロア使用の際は、スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。

本機は使用性能を向上させるため、使用圧力を従来の釘打機より高く設定しております。本機使用に際しては、専用エアコンプレッサ、専用エアホースが必ず必要です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと、異常燃焼をおこし、爆発の危険を伴いますので、専用エアコンプレッサ、専用エアホース以外は絶対に使用しないでください。

TA-238F3 (D) /4MAフロア使用の際は、エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

本機を絶対に改造・分解しない。

本機を改造・分解すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

エアホースを接続するときは誤って作動させないように下記のことを厳守する。

- トリガをロック（引けないよう固定）する。
- コンタクトアームに触れない。
- コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

指定ステーブルを必ず使用する。

指定されたステーブルと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のステーブルをご使用ください。（使用ステーブルは13ページ参照）

作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だと、つまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

⚠ 安全作業のために

作業中

⚠ 警告

使用空気圧を必ず守る。

本機の使用圧力範囲はHA-38F3 (D) /4MAフロアが1.2~2.3MPa (約12~23kgf/cm²)、TA-238F3 (D) /4MAフロアが0.4~0.8MPa (約4~8kgf/cm²) です。対象物によりその範囲内で調節し、使用してください。HA-38F3 (D) /4MAフロアは2.3MPa (約23kgf/cm²)、TA-238F3 (D) /4MAフロアが0.8MPa (約8kgf/cm²) を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

ステーブルを打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。

トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。ステーブルを打つ時以外は絶対にトリガに指をかけないでください。

射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたステーブルが人に当たらないよう作業中はまわりの人に注意をはらってください。



向い合わせのステーブル打ちは絶対にしない。

向い合ってステーブル打ち作業をすると、打ち損じたステーブルが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせのステーブル打ちは絶対にしないでください。



射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったステーブルや木の節などに当たった場合ステーブルがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物 (例:シンナー、ガソリン等) のそばで使うとステーブル打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

⚠ 安全作業のために

⚠ 警告

移動するとき、作業を中断するとき、平打ちアタッチメント着脱のとき、また、フック使用時は、必ずトリガをロックし、エアホースをははずす。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には、思いがけない事故につながります。また、作業中のステーブル装填、調整及びステーブルづまりを直すとき、誤ってステーブルを発射するおそれがあり、危険です。

落下やそれに類する衝撃を機械本体に与えた場合、安全装置等が正常に作動する事を確認してから作業を再開する(10ページ参照)。

異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリングサービス㈱にお買い求めの販売店を通じて、お申し付けください。

次のときは、本機を使用しない。 事故の原因になります。

- ・ 疲れているとき、身体が不調なとき。
- ・ 酒類や薬物を飲んで正常な動作ができないとき。

用途にあった作業に使用する。

本機は木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。指定された用途以外には使用しないでください。

子供を近づけない。

作業員以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。作業員以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。

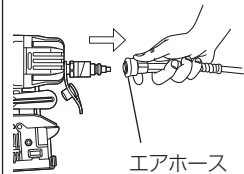
作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

移動するとき
作業を中断するとき

⚠ トリガをロックする



⚠ エアホースを外す



⚠ 安全作業のために

作業後

⚠ 警告

作業終了時には必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業終了時には、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。その際、ダスタボタンを押しながらエアホースをはずさないでください。本機内部にエアが残る可能性があります。

作業終了時には必ずステープルを抜き取る。

ステープルをマガジン内に残しておく、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながる可能性があります。作業終了時には必ずマガジン内のステープルを抜きとってください。

⚠ 安全作業のために

屋外作業について

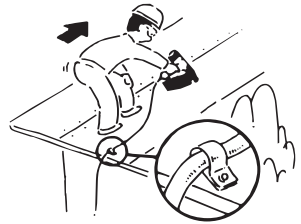
⚠ 警告

足場の安全性を十分に確認する。

足場を使っての高所作業の場合、ステーブル打ち作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

エアホースの確保。

高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。



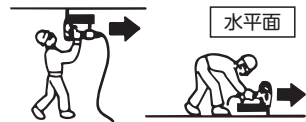
直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

打ち方

水平面のステーブル打ち

前進姿勢でステーブル打ち作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。



垂直面のステーブル打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へステーブル打ち作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。※内、外壁の同時打ちは絶対にしないでください。



傾斜面のステーブル打ち

下から上に向かって前進姿勢でステーブル打ち作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはず危険があります。



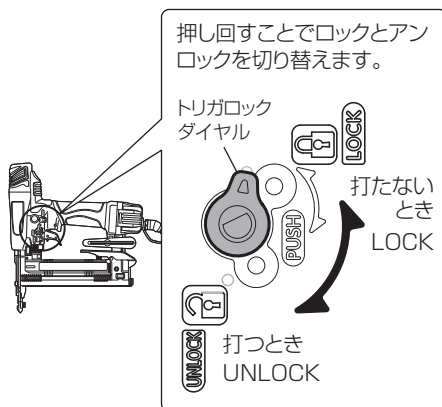
⚠ 安全装置について

ステーブル打ち作業の安全を確保するため、本機には次のような安全装置がっています。

●トリガロック装置

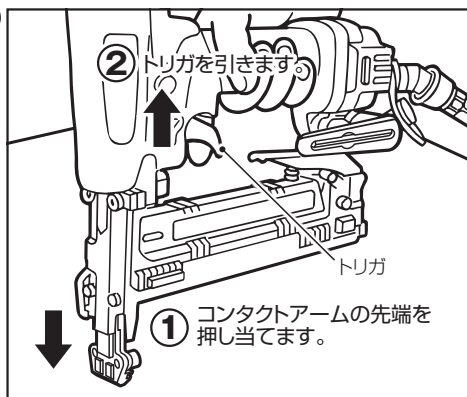
本機にはより安全に作業していただくためにトリガロック装置を標準装備しています。トリガロック装置とは、作業しないときに本機の使用者の意志によってトリガをロック（引けないように固定）することにより作動できないようにすることができる装置です。

ステーブルを打っているとき以外はトリガロックダイヤルを押し回し、LOCK（ロック）の位置にセットしエアホースをはずしてください。作業を始める場合はトリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK（アンロック）の位置にセットしてください。



●メカニカル安全装置（シーケンシャルトリガ）

これはコンタクトアーム、そしてトリガの順に作動させないとステーブルを発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけのときや、コンタクトアームを打込対象物に当てただけのとき、また、トリガ、コンタクトアームの順に作動させたときはステーブルは発射しません。コンタクトアームを対象物に当ててからトリガを引いたときのみステーブルは発射されます。



⚠ 安全装置について

点検により異常が発見された場合、ただちに使用を中止してください。

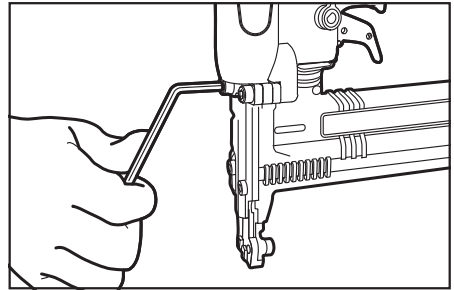
修理の際は決してご自分で修理をなさらず、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリングサービス㈱にお買い求めの販売店を通じて、お申し付けください。

使用前に安全装置が完全に作動するか必ず確認してください。

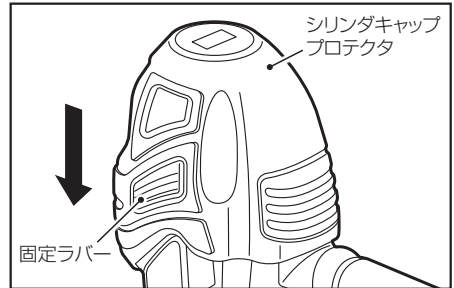
1. エアホース接続前の点検

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

- ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
- 各部品が外れていたり、傷んでいないか。
- コンタクトアームがスムーズに動くか。
- トリガをロック（引けないように固定）できるか。
- 固定ラバーがしっかり装着されていることを確認する。外れているとシリンダキャップを持った時に本体が落下する恐れがあります。（TA-238F3(D)/4MAフロア）



不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス㈱へ点検・修理に出してください。（コンタクトアームの確認のときは空打防止を解除してください。12ページ参照）



2. エアホース接続時の点検

エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはステーブルを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

- エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
- エアホースを接続しただけでエアダスタが作動しないか。
- エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がある場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス㈱に点検・修理に出してください。

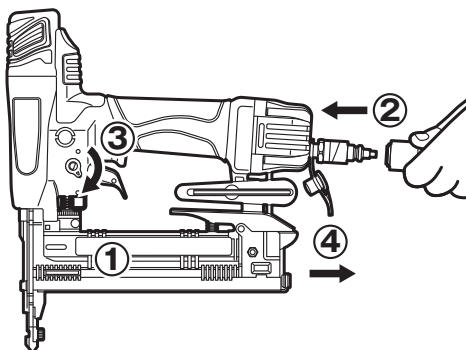
▲ 安全装置について

3. 安全装置の点検

ステーブルを打つ作業に入る前に安全装置に異常がないかを下記の手順で確認してください。

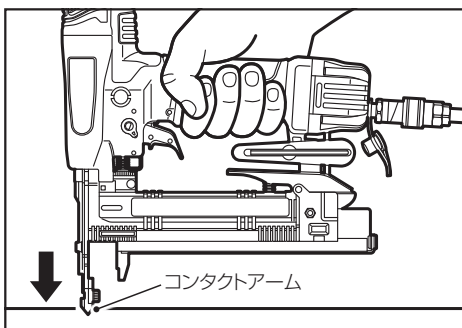
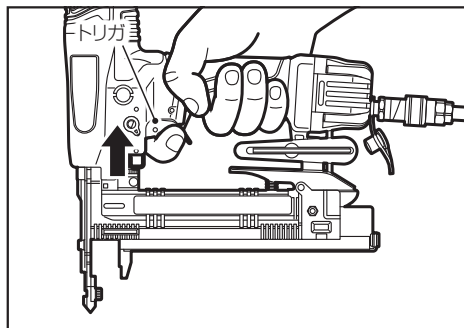
※本機は空打防止装置が装備されていますので、ステーブルを装填しない状態ではコンタクトアームは固定され動きません。

- ①作業に入る前に本機にステーブルが装填されていないことを確認してください。
- ②本機にエアホースを接続します。
- ③トリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK (アンロック) の位置にセットしてください。
- ④クリックレバーを押しながら、スライダユニットを引き出し、空打ち防止装置を解除します。



- ⑤まず、トリガだけ引いてください。

次にトリガから指を離し、コンタクトアームを材料に押しあててください。



このとき、本機が作動する場合は安全装置が異常です。

そのまま使うと、事故や破損の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

▲ 警告

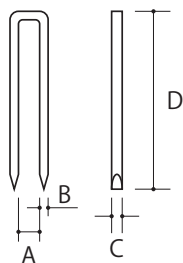
- 不要な空打ちは絶対に行わない。
スライダユニットを引き出すと空打ち防止機構が無効になります。不要な空打ちは、ドライバやコンタクトアーム先端の磨耗や損傷、及びその他各部に悪影響を与えますので絶対に行わないでください。
- 安全装置の確認の際にはコンタクトアームの先端付近には絶対に手を近づけない。
万が一安全装置に異常があった場合、思わぬ怪我をする場合があり、非常に危険です。

仕様及び付属品

商 品 名	マックス釘打機スーパーネイラ	マックス釘打機フロアネイラ
商 品 記 号	HA-38F3 (D)/4MAフロア	TA-238F3 (D)/4MAフロア
バルブ機構	メインバルブ方式	ヘッドバルブ方式
ステーブル送り機構	プッシュパネ送り方式	
マガジン形式	アンダーローディング方式	
寸 法	(H) 254 × (W) 68 × (L) 276 mm	(H) 254 × (W) 68 × (L) 284 mm
質 量	1.3kg	1.5kg
ステーブル装填数	84本	
使用空気圧範囲	1.2~2.3MPa(約12~23kgf/cm ²)	0.4~0.8MPa(約4~8kgf/cm ²)
使用エアコンプレッサ	マックススーパーエア・コンプレッサシリーズ	マックスエア・コンプレッサ
使用エアホース	マックススーパーエア・ホースシリーズ	内径7mm以上、長さ30m以内
使用オイル	タービン油2種ISO VG32 (JIS K 2213)	
安全装置	メカニカル方式、トリガロック装置	
装 備 品	六角棒スバナ4mm、シリンダキャッププロテクタ	
付 属 品	キャリングケース、ジェットオイル(油入)、平打ちアタッチメント、保護メガネ	

〈使用ステーブルサイズ〉

(単位:mm)



ステーブル	A	B	C	D	先端形状	接着剤色
419MA	4	1.1	1.3	19	 チゼル ポイント	—
422MA	4	1.1	1.3	22		—
425MA	4	1.1	1.3	25		—
425MAフロア	4	1.1	1.3	25		レッド
428MA	4	1.1	1.3	28		—
432MA	4	1.1	1.3	32		—
432MAフロア	4	1.1	1.3	32		レッド
438MA	4	1.1	1.3	38		—
438MAフロア	4	1.1	1.3	38		レッド

⚠ 警告

●指定ステーブルを必ず使用する。

指定されたステーブルと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となります。

●主な用途

- 各種フローリング施工
- 腰板止め
- 床捨て張り止め
- ベニヤ板止め 等

●適応フローリング材

- 複合(合板)フローリング材+床下地材
- 単層(ムク)フローリング材+床下地材 ※1

※床下地材……………根太、合板、パーティクルボード等

※1 材料、厚さ、組合せによっては打ち込めない場合があります。

警告

- 施工については、フロア材メーカーの施工・取扱説明書等の指示に従い行う。

注意

- 部材の堅さ(単層フローリング材)や厚さの組合せによっては打ち込めない場合があります。また、使用空気圧が低いと適正な打込み状態を得られない場合(ステーブル浮き等)があります。試し打ちにて打込確認の上、ご使用ください。

使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

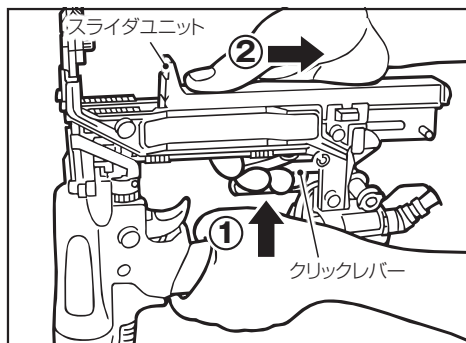
ステープルの装填方法

⚠ 警告

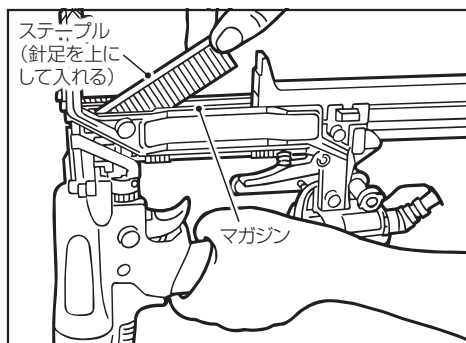
- ステープルを装填する時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

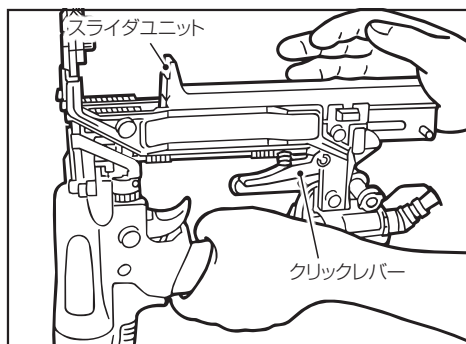
- ①トリガをロックし、エアホースをはずします。
- ②クリックレバーをはずし、スライダユニットを引き出します。



- ③ステープルの足を上にしてマガジン内に入れます。



- ④スライダユニットを押し、クリックレバーを確実にセットします。



⚠ 注意

- ステープルを過剰に装填して、スライダユニットを無理やり閉めると本機の故障の原因となります。
(ステープル装填数13ページ参照)

打ち方

本機はシーケンシャルトリガを採用しています。シーケンシャルトリガは、コンタクトアームを対象物に押し当てた後、トリガを引く単発打ち専用の構造となっておりますので狙った場所に一発一発より一層確実に打つことができます。また、その結果として偶発的な思わぬ事故から身を守り安全に作業することにつながります。

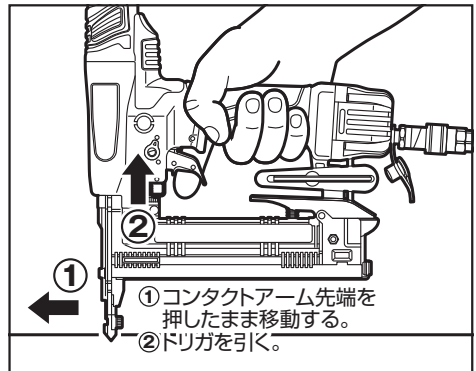
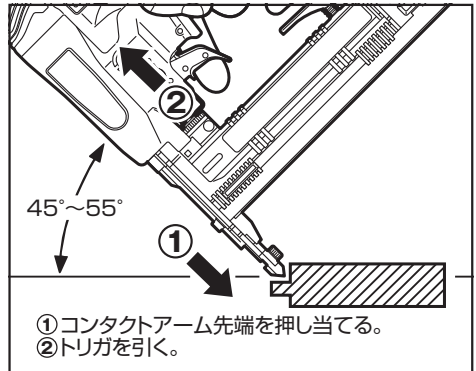
手順

- ①トリガロックダイヤルを押し回し、UNLOCK (アンロック) の位置にセットしてください。
- ②ステープルを打とうとする箇所にコンタクトアームの先端を押し当ててからトリガを引いてください

⚠ 注意

- サネ打ち作業は45°から55°の角度でお使いください。それ以外ではフロア材を傷める場合 (膨らみ、板割れ、破損等) があります。
- フロア材メーカーやハウスメーカーより指定がある場合には、施工指示に従って施工してください。

- ③トリガを引いたままで、再度コンタクトアームを対象物に当ててもステープルは発射されませんので、トリガから指をいったんはなしてから②の動作を繰り返して行ってください。
- ④コンタクトアームを押し付けたまま次の打ち込み位置へ移動して再度トリガを引けばステープルを発射することができます。



⚠ 警告

- 作業前、シーケンシャルトリガが上記通りの作動をするか必ず確認する。
- シーケンシャルトリガの各部品が摩耗または消耗していないか必ず点検して、異常がある場合は本機を使用しない。
異常がある場合はお買い求めの販売店またはマックスエンジニアリングサービス㈱に点検・修理に出してください。

⚠ 注意

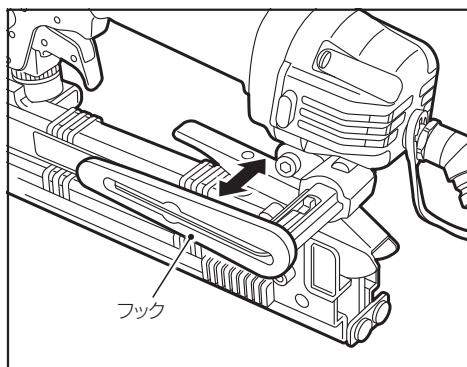
- 本機には空打防止装置が装備されています。ステーブルがなくなると打てなくなります。続けてお使いになる場合は、ステーブルを補充してください。
- ※コンタクトアームを押し付けたまま次の打ち込み位置へ移動して再度トリガを引く打ち方をした場合、空打防止装置は機能しません。ステーブル残量表示窓を確認しながら作業してください。また針がなくなった後も空打ちを続けると、プッシュヤや空打防止装置を損傷する場合がありますので注意してください。
- ※打ち込み時にコンタクトアームを強く押し付け過ぎると、先端部からエア漏れし、ピストンが戻りきらずにステーブルの送り不良となる場合がありますので注意してください。

フックの方向の変え方

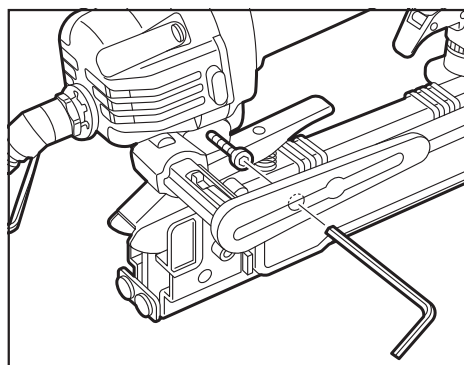
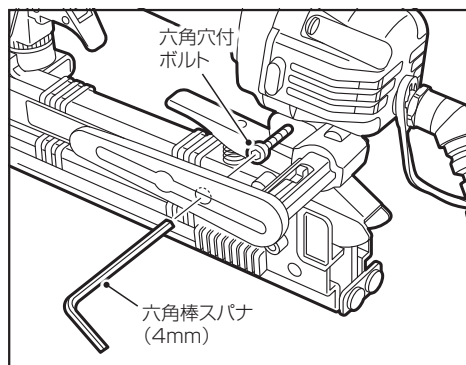
〈フック幅の変更〉

フックをスライドさせる事でフック幅を変える事ができます。

- ※キャリングケース収納時はフック幅を小さくした状態で収納してください。



フックは反対側に取り付けることができます。付け変えるときは、六角棒スパナでボルトをはずし、フックの取付け位置を変えてから、再び組込んでください。

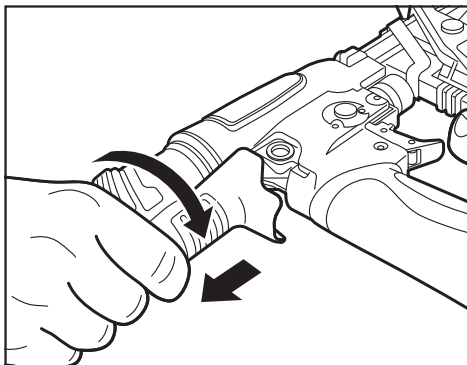


シリンダキャッププロテクタ交換方法

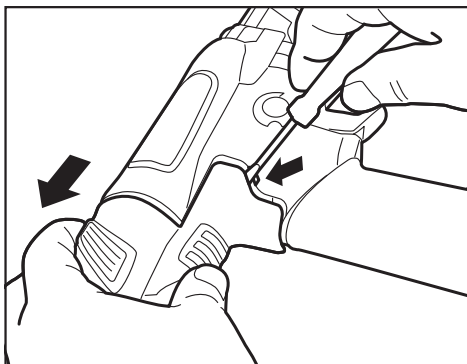
〈HA-38F3 (D) / 4MAフロア〉

手順

- ①シリンダキャッププロテクタをつかみ、ひねりながら本体上方向に引っ張ってください。



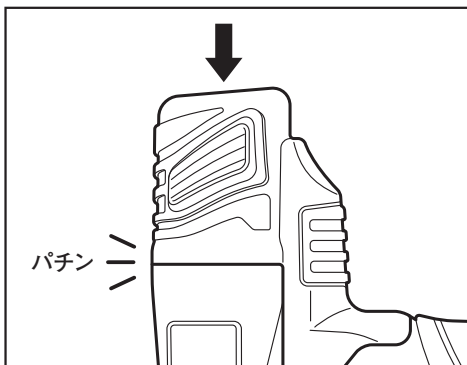
取れない場合は、図の位置にマイナスドライバを差し込み、シリンダキャッププロテクタを浮かせた状態で引っ張ってください。



⚠ 注意

- ボデーを傷付けない様、気を付けてください。

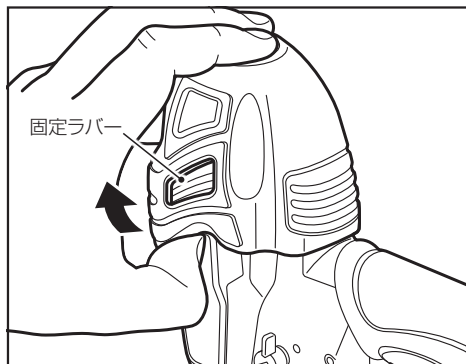
- ②新しいシリンダキャッププロテクタを、上からパチンと音がするまで取り付けてください。



〈TA-238F3 (D) /4MAフロア〉

手順

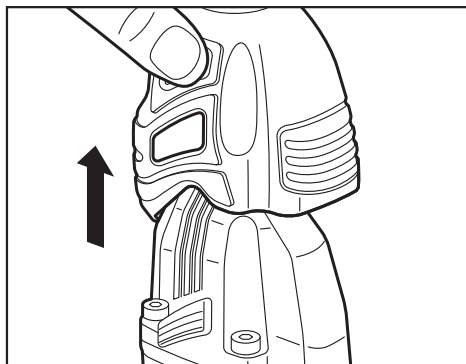
- ① シリンダキャッププロテクタに指を差し入れ、左右の固定ラバーから外します。



- ② 上方方向にシリンダキャッププロテクタを引っ張り取り外します。

⚠ 注意

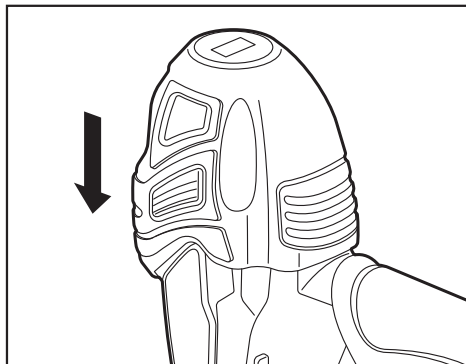
- 固定ラバーから外さずに無理に引張らないでください。固定ラバーがはがれてシリンダキャッププロテクタを固定できなくなります。



- ③ 新しいシリンダキャッププロテクタを押し込み、固定ラバーがしっかりとハマっている事を確認してください。

⚠ 警告

- 固定ラバーがしっかりと接着されている事を確認する。



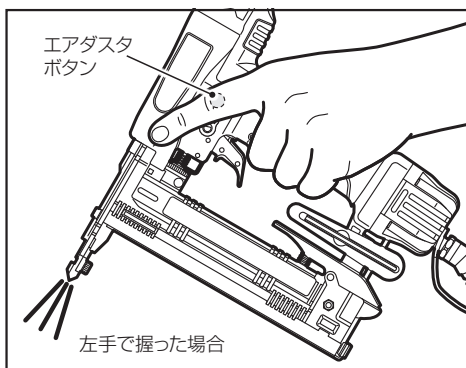
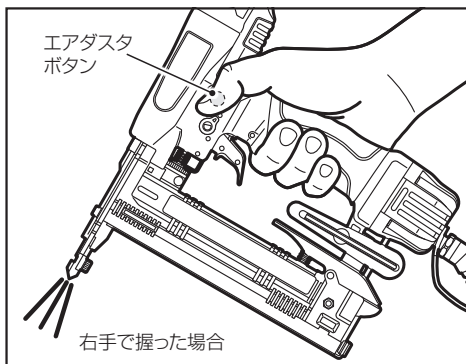
シリンダキャッププロテクタをお求めの際は、お買い求めの販売店または、マックスエンジニアリングサービス㈱にご相談ください。

⚠ 警告

- 射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。
- エアダスタを使用する時は、必ずトリガをロックする。
- エアダスタボタンを押したままでエアホースをはずさない。

① トリガロックをロックの位置にセットしてください。

② エアを吹きたい所に吹き出し口を向けて、エアダスタボタンを押してください。



⚠ 注意

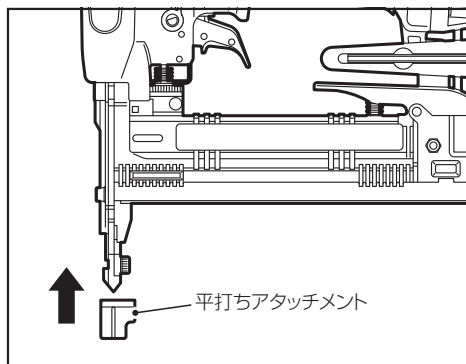
- エアダスタを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。エアコンプレッサの圧力が回復してから作業を始めてください。
- 注油した直後にエアダスタを使用すると、オイルが吹き出し口より飛散する場合があります。10～30発程度実打してからエアダスタを使用してください。

平打ちアタッチメントの使い方

⚠ 警告

- 平打ちアタッチメント着脱の際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

平打ちする場合、対象部材が柔らかくコンタクトアームを押し当てた時に傷をつける恐れがある時は、付属品のアタッチメントをコンタクトアームの先端に取り付けてご使用ください。

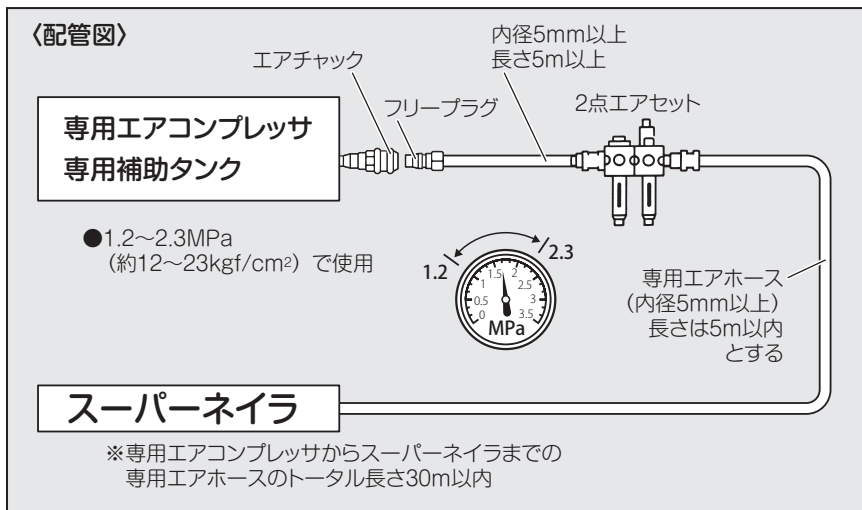


配管についての注意

〈HA-38F3 (D) /4MAフロア〉

警告

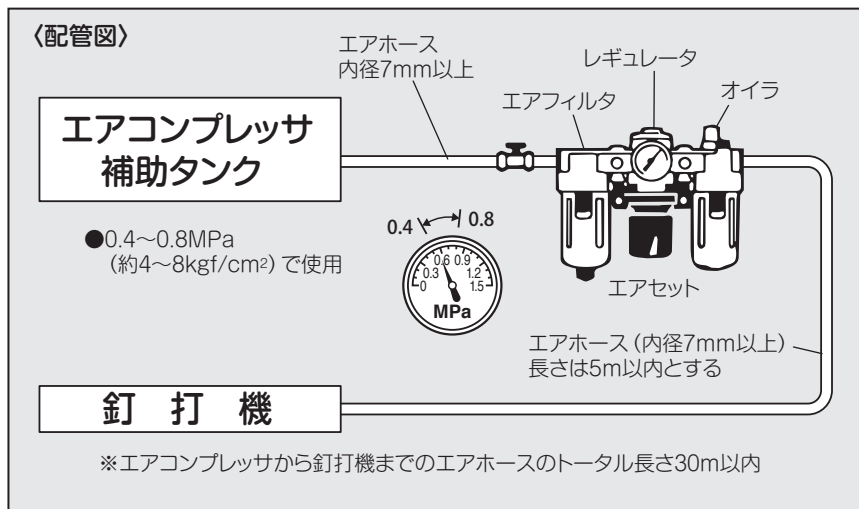
- 本機使用の際は、スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。本機は、使用性能を向上させるため、使用圧力を従来の釘打機より高く設定しております。使用に際しては、専用エアコンプレッサ、専用エアホースが必要です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、専用エアコンプレッサ、専用エアホース以外は絶対に使用しないでください。また、本機、専用エアコンプレッサ、専用エアホースとも、フリープラグ、エアチャックが専用のものとなっており市販の物とは互換性がありませんので、他の機器との接続はできない仕様になっております。改造・加工等して他の機器を使えるように絶対にしないでください。
- 動力源は必ずマックス専用エアコンプレッサを使用してください。高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）等は絶対に使わないでください。
- エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。
- 接続するエアホースもマックス専用エアホースを使用してください。専用エアホースは内径5mm以上、長さ30m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径5mm以上、長さ5m以内で使用してください。



⚠ 警告

●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

- 動力源は必ずマックス専用エアコンプレッサを使用してください。
高圧ガス (例:酸素、アセチレン等) 等は絶対に使わないでください。
- エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。
- エアホースは内径7mm以上、長さ30m以内で使用してください。
エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径7mm以上、長さ5m以内で使用してください。



エアホースの接続

警告

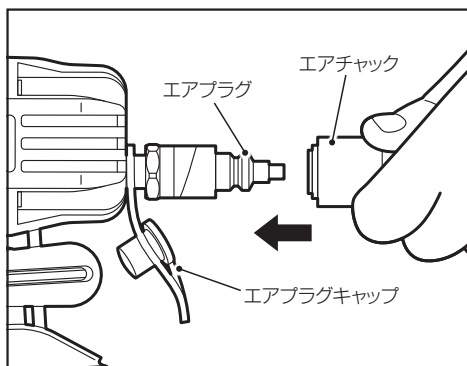
●エアホース接続の時は必ず厳守する。

エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

- トリガをロックする。
- コンタクトアームやエアダスタボタンに触れない。
- コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
- 射出口やエアダスタ吹き出し口を人体に向けない。

手順

- ① トリガをロックします。
- ② エアプラグからエアプラグキャップをはずします。
- ③ エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。



警告

- 作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

打込状態の確認と空気圧・アジャスタの調整

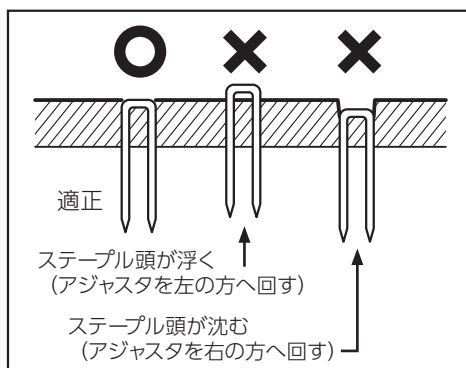
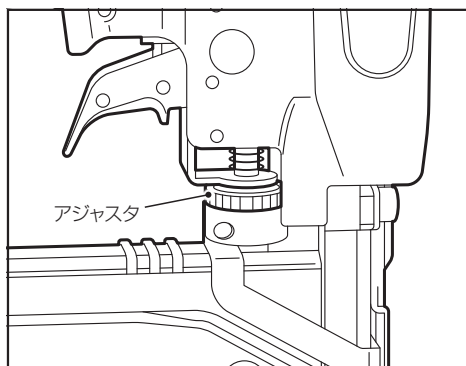
本機には打込深さを調整できるアジャスタが装備されています。打込みすぎは極端に保持力が低下やフロア材を傷める場合（膨らみ、板割れ、破損等）があります。作業の際には打込状態を確認して、アジャスタで深さを調整してください。

警告

- 調整の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。
- HA-38F3 (D) /4MAフロアは2.3MPa (約23kgf/cm²)、TA-238F3 (D) /4MAフロアは0.8MPa (約8kgf/cm²) を超えた圧力では絶対に使用しない。
- 調節する時は射出口を下に向け、顔や手、足などの人体がないことを確認する。

手順

- 1 トリガをロックし、エアホースをはずします。
- 2 ステープルを装填します。
- 3 エアコンプレッサの圧力を
HA-38F3 (D) /4MAフロアは1.5MPa (約15kgf/cm²)、
TA-238F3 (D) /4MAフロアは0.6MPa (約6kgf/cm²)
にセットします。
- 4 本機にエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをUNLOCK (アンロック) にセットします。
- 5 アジャスタの調整 (ステープルの打込調整) の前に一度テスト打ちしてください。打込みたい深さを確認します。
- 6 適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。



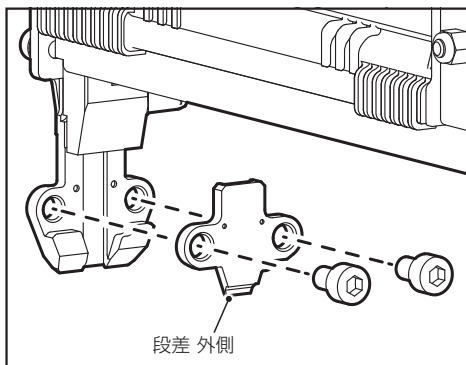
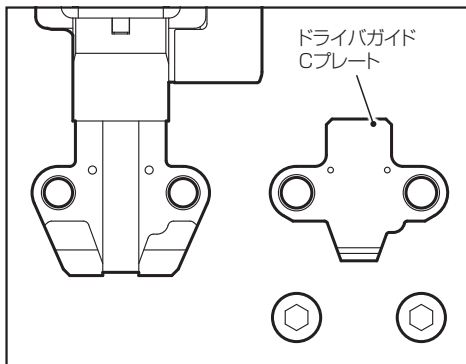
ステーブルづまりの直し方

警告

- ステーブルづまりを直す時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

- ①トリガをロックし、エアホースをはずします。
- ②クリックレバーをはずし、スライダユニットを引き出し、マガジン内に残っているステーブルを取り除きます。
- ③コンタクトノーズの六角穴付きボルトをスパナでゆるめ、ドライバガイドCプレートを外し詰まったステーブルを取り除きます。
- ④ドライバガイドCプレートを、先端の段差が外側を向くように機械本体に組み付け、六角穴付きボルトをしっかりと締めてください。



注意

- ボルトが緩んでいたり、抜けていないか必ず確認してから使用してください。
- ドライバガイドCプレートが組付けられていない、誤った向きで組付けられている状態では使用しないでください。

保守・点検

本機を大切に使う

落したり、ぶつかけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつかけたり、叩いたりしないでください。



繰り返しカラ打ちをしない

ステーブルを装填しないでカラ打ちをくり返し行うと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

エア圧力を調整し、使用する

打込対象物に合わせ必ず空気圧を調整し、使用してください。

対象物に対して空気圧が高すぎるまま使用しますと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

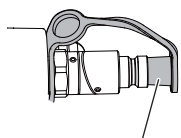
指定オイルを注油する

オイルはタービン油2種 ISO VG32 (JIS K 2213) を必ずお使いください。使用前にフリープラグの口より穴からあふれる程度、注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。



エアプラグキャップの使用方法

本機を使用しないときには、機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはフリープラグにキャップを装着してください。



エアプラグキャップ

エアコンプレッサのタンク、補助タンクの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンクに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。

定期的に清掃する

本機の性能を維持するために清掃を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス㈱にお申しつけください。

清掃方法

- ・砂やゴミがついたらエアダスタで飛ばしてください。
- ・トリガの裏もエアダスタで飛ばしてください。
- ・布できれいに拭いてください。

射出口 (コンタクトノーズ) の点検

トリガをロックし、エアホースを外した状態で射出口 (コンタクトノーズ) がスムーズに動かか確認してください。

射出口 (コンタクトノーズ) の可動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより、スムーズに動作すると同時にさび止めにもなります。

ピストンOリングの点検

ピストンOリングは、消耗品です。ドライバがズルズルと落ちてきたら、お買い求めの販売店、又はマックスエンジニアリングサービス㈱にお申しつけください。

保守・点検（つづき）

作業後の保管

- ※作業後はステーブルを全部抜き取ってください。
- ※フリープラグにエアプラグキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。
 - 作業後は、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、エアプラグキャップをフリープラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。
 - 長期間使用しない場合は、さび防止のため、フリープラグから給油し、2,3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
 - 鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
 - 油は、付属の油をご使用ください。
 - お子様の手の届かない、乾燥した場所に保管してください。

保証、アフターサービスについて

保証について

- 本機には保証書（梱包箱に添付）がついています。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 本機の基本保証期間はご購入日より1年間です。
「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が2年間となります。

アフターサービスについて

- 本機の調子が悪いときは、使用を中止して、ご購入求めの販売店又はマックスエンジニアリングサービス㈱にご相談ください。
 - 保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
 - 保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。
- ※本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

memo

A series of horizontal dotted lines for writing a memo.

●マックスお客様ご相談ダイヤル

0120-228-358

『ナンバーディスプレイ』を利用しています。

マックス株式会社

●販売拠点等

本社	〒103-8502	東京都中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03) 3669-8121
札幌支店	〒060-0041	北海道札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011) 261-7141
仙台支店	〒984-0002	宮城県仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL (022) 236-4121
盛岡営業所	〒020-0824	岩手県盛岡市東安庭2-10-3	TEL (019) 621-3541
東京支店	〒103-8502	東京都中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03) 3669-8101
多摩営業所	〒190-0022	東京都立川市錦町5-17-19	TEL (042) 528-3051
東関東営業所	〒300-0811	茨城県土浦市上高津915-1	TEL (029) 835-7322
千葉営業所	〒284-0001	千葉県四街道市大日1870-1	TEL (043) 422-7400
群馬営業所	〒370-0031	群馬県高崎市上大類町412	TEL (027) 353-7075
長野営業所	〒399-0033	長野県松本市笹賀8155	TEL (0263) 26-4377
新潟営業所	〒955-0081	新潟県三条市東裏館2-14-28	TEL (0256) 34-2112
名古屋支店	〒462-0819	愛知県名古屋市中区平安2-4-87	TEL (052) 918-8619
静岡営業所	〒420-0067	静岡県静岡市葵区幸町29-1	TEL (054) 205-3535
大阪支店	〒553-0004	大阪府大阪市福島区玉川11-3-18	TEL (06) 6444-2031
神戸営業所	〒650-0017	兵庫県神戸市中央区楠町6-2-4ハーバースカイビル1F	TEL (078) 367-1580
京滋営業所	〒612-8414	京都府京都市伏見区竹田段川原町195	TEL (075) 645-5061
広島支店	〒733-0035	広島県広島市西区南観音7-11-24	TEL (082) 291-6331
福岡支店	〒812-0006	福岡県福岡市博多区上牟田1丁目5-1	TEL (092) 411-5416
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島県鹿児島市東開町3-24	TEL (099) 269-5347
東日本受注センター	〒370-0031	群馬県高崎市上大類町412	TEL (0120) 166-199
西日本受注センター	〒553-0004	大阪府大阪市福島区玉川11-3-18	TEL (0120) 113-850
埼玉マックス(株)	〒331-0823	埼玉県さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 651-5341
横浜マックス(株)	〒241-0822	神奈川県横浜市旭区さちが丘7-6	TEL (045) 364-5661
金沢マックス(株)	〒921-8061	石川県金沢市森戸2-15	TEL (076) 240-1871
岡山マックス(株)	〒700-0971	岡山県岡山市北区野田3-23-28	TEL (086) 246-9516
四国マックス(株)	〒761-8056	香川県高松市上天神町761-3	TEL (087) 866-5599
四国マックス(株)松山駐在所	〒790-0036	愛媛県松山市小栗6-1-22第1白石ビル1F	TEL (089) 913-1893

●マックスエンジニアリングサービス(株)

札幌サービスステーション	〒060-0041	北海道札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011) 231-6487
仙台サービスステーション	〒984-0002	宮城県仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL (022) 237-0778
新潟サービスステーション	〒955-0081	新潟県三条市東裏館2-14-28	TEL (0256) 35-7252
高崎サービスステーション	〒370-0031	群馬県高崎市上大類町412	TEL (027) 350-7820
埼玉サービスステーション	〒331-0823	埼玉県さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 667-6448
名古屋サービスステーション	〒462-0819	愛知県名古屋市中区平安2-4-87	TEL (052) 918-8624
京都サービスステーション	〒612-8414	京都府京都市伏見区竹田段川原町195	TEL (075) 645-5062
大阪サービスステーション	〒553-0004	大阪府大阪市福島区玉川11-3-18	TEL (06) 6446-0815
広島サービスステーション	〒733-0035	広島県広島市西区南観音7-11-24	TEL (082) 291-5670
福岡サービスステーション	〒812-0006	福岡県福岡市博多区上牟田1丁目5-1	TEL (092) 451-6430
東京事業所	〒103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町6-2	TEL (03) 5623-4611

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

4100557
160701-00/00



便利メモ

お名前	商品名	HA-38F3 (D)/4MAフロア・TA-238F3 (D)/4MAフロア
お買い上げ日	年	月
	日	製造番号
販売店名	☎	